

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和
新潟県山岳協会
新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野亘寛
TEL 0258-52-3998



尾神岳山頂にて

第47回 自然保護研修会に参加して

亀田山岳会 田村 健

10月18日から19日にかけて、新潟県山岳協会自然保護委員会の自然保護研修会が新潟県上越市吉川区尾神 ゆうランドに於いて開催された。

研修会は18日14時から受け付けを開始し、参加者が参集した。参加者は40名を超え、大広間にて座学形式の研修となった。研修は新潟県環境企画課自然保護係 飯塚係長による新潟県の自然公園の概況と自然保護の取り組みについての講義と日本野鳥の会の山本明先生による「やまの鳥あれこれ」という演題で行われた。15時に開会となり、自然保護委員長本間一人氏の挨拶

より研修の始まりとなった。最初の研修は飯塚係長による講義であった。飯塚氏は元々林野行政畑であるということ、山の自然に常に触れてこられたという。飯塚氏が担当される環境企画課自然保護係は自然公園の保護管理を担う部署であり、それについて解説が行われた。

自然公園は①国立公園、②国定公園、③県立自然公園の3種類があり、県内の自然公園は19か所、総面積は316891haと北海道に次ぐ広さであり、県土面積の25%を占める。自然公園の管理体制は①自然環境保護員（県委嘱）②自然公園指導員（国委嘱）が巡視や利用者の指導に当たっている。その他、自然公園等の登山道関連の事業についての説明があった。今回の研修会の参加者ならびに新潟県山岳協会加盟の団体においては、自然保護への要望や登山道に関する要望・意見など積極的に声をあげて欲しいとの説明があった。

続いて、山本先生による研修が行われた。まず、山の鳥

で高山に住むライチョウの話であった。雷鳥の世界的分布はユーラシア大陸北部と北アメリカ大陸北部、と日本の本州中部山岳地帯である。日本を除けば、北緯60度以北の高緯度地域を主な生息域としている。日本で生息しているのは特異な例である。日本ではかつて、富士山にほかの山のライチョウを放鳥したことがあったが、何代か世代交代したことは確認されたが、定着することはなかった。その原因は多くの要因が考えられるが、富士山にはハイマツ帯がなく、ライチョウの生息環境に適さなかったのではないかと考えられる。同じように金峰山でも放鳥がおこなわれたが、金峰山ではハイマツが貧弱であり定着に至らなかったのではないかとのことだった。

二つ目の話題では、火打山登山道周辺で見られる鳥について詳しく解説があった。コマドリ、ルリビタキ、ホシガラス、ウソ、イワヒバリ、ミソサザイ、キクイタダキ、コジュウカラ、コルリ、オオルリ、クロジ、イヌワシ 等の夏の生息場所や標高、テープレコーダーを使用した鳴き声も同時に流していただき、解説を受けた。

19日は朝7時にゆうランド

を出発し、尾神岳の登山口車で移動した。登山口で準備し7時30分に歩き始めた。20分程で展望台に到着し、展望を楽しんだ。山頂到着はおおよそ8時20分の到着であった。山頂では一行の記念撮影を行いました。同行していただいた飯塚氏の森の解説を聞きながらの休息であった。8時40分に山頂を出発し、9時15分には登山口に戻った。その後、尾神岳中腹にある。報尺為期碑（ほうじんいごひ）を見学した。報尺為期碑は明治16年（1883）3月12日に尾神岳で発生した雪崩に、材木を挽き出していた多くの浄土真宗の門徒が巻き込まれ、命を落とされたものだ。この碑はその魂を慰めるために建てられた殉難者供養碑である。このあと大出口泉水にて名水を酌み10時に解散となった。

今回の研修会では、新潟県自然保護の行政担当者から施策の説明を直接受けたことが自然保護行政への理解につながったと意義を感じた。また、山本先生の山の鳥の講義では、夏の登山道で聞こえる鳥の声について、特に垂直分布（夏の繁殖の場所）などの要点を教えていただき、山歩きの楽しみ方を一つ教えていただいたと感謝している。

登山計画書を出しましょう

大分国体 成年男子・女子3年連続入賞 少年女子2種目入賞 「2」

強化総括責任者 渡 正 之

成年男子はボルダリング競技で6位、成年女子はリード競技7位に入る。少年女子は最終日の決勝で、午前中リード競技4位、午後のボルダリング競技8位で、両種目入賞を果たした。

10月4日(土)競技2日目

午後3時を過ぎて始まった少年女子のリード予選、新潟県チームは18チーム中8番目に登場した。塚本菜々香選手はホールド後5個を残したところで落ちた。個人8位に入る。五十嵐妹子選手はルート上の核心部分、つかみにくいホールドの付いているところを越えられず、ホールドを10個ほど残して競技を終了した。個人順位は20位に終わる。チームとしては7位になった。山口、富山、群馬の計3名の選手が完登した。前日競技中に腕を脱臼した静岡県選手は、片腕を三角巾で固定したままホールドに触り競技を終了する。当然最下位である。この日は新潟県チーム成年・少年3種別とも予選を通過して、明日の決勝を迎えることとなった。

10月5日(日)3日目、競技最

終日はいずれも決勝戦が行われる。少年女子はリード競技とボルダリング競技両方に出場する。9時からリードの決勝、正午にはボルダリング決勝に登場する。成年女子のリード決勝は11時すぎに、成年男子ボルダリング決勝は午後2時半からと予定されていた。

この日は夜半からの雨が降り止まず、コウモリ傘が手放せない。リード壁の濡れることが心配された。ホールドに雨粒が当たるとは、滑って危険で競技は中止となる。決勝競技が出来ない場合、予選の成績がそのまま最終成績になると予告があった。壁の両側にもメッシュ状のシートがかけてある。風は通すが雨滴は防ぐとか。全部取りはずして壁を見ると、そのボード表面は濡れてはいない。壁そのものが傾斜している、天井部分に雨水が伝わらない工夫をして、表面を乾いた状態に保つことが出来た。観客席の地面には雨を予測して予めウレタンマットが敷いてあ

た。並べてある折りたたみ椅子の表面はびしょ濡れになっている。県体協から板屋越副本部長はじめ何人もの応援団が駆けつけてくれて、観客席前部に陣取った。

決勝は8チーム16名の選手が登場する。予選8位の山梨県が登場し、7位の新潟県チーム2番目に登った。左側を登る塚本選手が先行して、9mの折れ曲がり部分を通過した。しかし、11m付近であっけなく墜落した。成年男子平嶋選手と同じように、まだ行けると見ていた矢先の落下。右側を登る五十嵐選手が粘りを見せた。すでに地面に下り立つた塚本選手が五十嵐選手の登りを見上げた。ホールドをひとつずつ慎重につかんで、距離を伸ばす。まだ10個以上も

11・0となる。合計16・0である。ルートセットの妙で、おなじホールド部分で登られなくなり、同順位が生じやすい。少年女子は過去に縦走競技で3位、4位、5位の記録を残しているが、初めてクライミングで入賞した。完登者はいなかった。山口県選手が最終ホールドに触ったが、ロープを金具にクリップ出来なかった。ルール上ではロープを金具にかけないと完登とは認められない。

で欲しい。チーム成績は予選よりもひとつだけ下がって7位になった。茨城県選手1名が予選と決勝ルートを完登した。正午過ぎ少年女子のボルダリング競技決勝が開始された。予選2位で8チーム中7番目に登る。決勝戦は、1ラウンドと2ラウンドに別れている。1ラウンドは8チーム全てが課題1と課題2に挑戦し、その成績で上位4チームのみが2ラウンドに進み、課題3と4に登る。1ラウンド終了時点で5位から8位チームが決まる。塚本選手、五十嵐選手共に先程のリード決勝で疲れたのか、粘りが感じられない。課題1はふたりとも無難に完登した。課題2は最初から持てあました感じで、登れそうに見えない。結局、ボーナスポイント2をかるうじて確保したに留まった。16名中、五十嵐選手11位、塚本選手13位とあって8チーム中の最下位で、2ラウンド目の競技に進む権利を失う。選手本人も新潟県応援団も期待が大きかった、この成績には一時言葉が出なかった。課題2を一撃完登した選手は3名、他に1名が3回目で最終ホールドに達した。塚本・五十嵐両選手が課題2のボーナス1のホー

のホールドを残して五十嵐選手10位、五十嵐選手個人5位と健闘する。チーム成績4位となった。今年から採点方法が変更されて、ふたりの選手個人順位の合計がチームの成績となる。その数字の小さい順に1位からの順位が決まる。五十嵐選手5位で順位点5・0、塚本選手10位が3人いたために10と11、12を加算し3で割り、順位点は

予定を少し遅れて始まった。新潟県チームは3番目に登場した。片桐選手は個人9位、瀧澤選手個人12位で、登ったホールドの数に1個の差がある。瀧澤選手はこの大会それなりの成績を残したが、いつもの切れが感じられなかった。春日監督の分析では、片桐選手は昨年に比べて進歩の跡が見られないと手厳しい。同じく瀧澤選手は上背があつて腕が他の選手より伸びるので、体のひねり、いわゆるムーブを使わないでホールドを取りに行く。この癖が直らないと先に進めないといふこともまた厳しい指摘である。新潟国体までに監督は、練習や合宿で選手にこのことをぜひたたき込ん

に達した。塚本・五十嵐両選手が課題2のボーナス1のホー

ルドを共に取って、登り直しとなり、さらに最終ホールド両手保持を怠り、完登不認定でポーナ1獲得と記録された。

大分国体最後の競技、成年男子ボルダリング競技決勝は開始予定午後2時30分。平嶋選手は課題2を一撃完登したが、課題1には苦戦してポーナ2のホールドをつかんだだけで6分間が終わった。岩橋選手は課題1のポーナ1を取った。しかし課題2は不得意なのか、ポーナ2を取って制限時間になった。課題1を完登したのは16名のうち6名のみで、彼らはポーナ2の上の大きなホールドを飛び越して、先の上の小さなホールドを取ったりしていた。課題2は8チームとも1名ずつが完登した。2名とも登り切った原はない。ラウンド1で、新潟県の6位が確定した。2ラウンド目には進めない。予選3位の群馬県が最下位8位になった。2ラウンド目、宮城県選手ひとり4個の課題を全て一撃完登して、宮城県はすごいという歓声が上がった。宮城県選手のひとり肩の脱臼、山口県選手のひとりも足の捻挫と聞いていたが、それぞれ1位、3位になった。

ルドを共に取って、登り直しとなり、さらに最終ホールド両手保持を怠り、完登不認定でポーナ1獲得と記録された。

大分国体最後の競技、成年男子ボルダリング競技決勝は開始予定午後2時30分。平嶋選手は課題2を一撃完登したが、課題1には苦戦してポーナ2のホールドをつかんだだけで6分間が終わった。岩橋選手は課題1のポーナ1を取った。しかし課題2は不得意なのか、ポーナ2を取って制限時間になった。課題1を完登したのは16名のうち6名のみで、彼らはポーナ2の上の大きなホールドを飛び越して、先の上の小さなホールドを取ったりしていた。課題2は8チームとも1名ずつが完登した。2名とも登り切った原はない。ラウンド1で、新潟県の6位が確定した。2ラウンド目には進めない。予選3位の群馬県が最下位8位になった。2ラウンド目、宮城県選手ひとり4個の課題を全て一撃完登して、宮城県はすごいという歓声が上がった。宮城県選手のひとり肩の脱臼、山口県選手のひとりも足の捻挫と聞いていたが、それぞれ1位、3位になった。

今秋 晴れの受賞
山と自然保護・岳人の育成に日々精進

藍綬褒章に輝く

橋本 正巳さん 高田ハイキングクラブ



授章された橋本 正巳さん

自然公園功労者

新潟県知事表彰に輝く

横田利八郎さん 高田ハイキングクラブ

坂井 厚さん 峡彩山岳会

桜井 昭吉さん 小出山の会

長年その地域を自然保護の思想に基づき、その普及へ貢 献、登山者への献身的な安全 指導と岳人育成を念頭に尽力 された、藍綬褒章の橋本さん、 自然公園功労者・県知事表彰

の横田さん、坂井さん、桜井 さんの各氏が、それら多くの 功績が認められ、今秋の発表、 授章となった。

腰痛・肩こり・冷え・筋力低下
細菌衛生・さい帯血保管 等
総合健康医療器機販売
メディカル ユングフラウ
電話 090-3173-0540

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー
パーマーク
Mountain & Outdoor
Parr Mark
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休
http://www.parrmark.co.jp

第11回 新潟カップ開催される

11月9日(日)、妙高市の国際アウトドア専門学校で新潟カップが開催された。

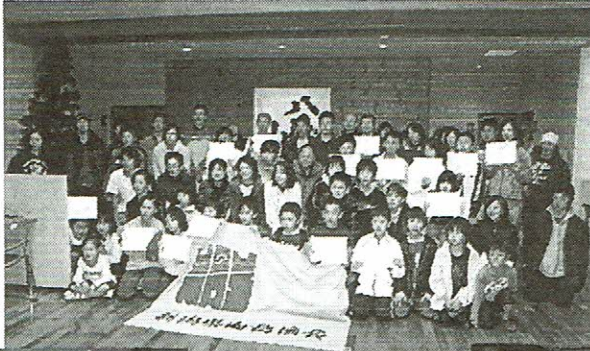
新潟県以外の参加もあり男子43名、女子24名、総勢67名(小学生18人)の申込みがあり盛大におこなわれた。

オープン男子は新潟の渡辺が決勝では2度のテクニカルインシデントにも係わらず集中力を切らさず2位以下を大きく引き離して完勝。女子は新潟の国体選手でもある片桐が接戦のなか見事完登、ともに優勝を完登で飾った。小学生の部では男女ともスーパーファイナルまで進んだが決着がつかず、タイムで勝敗を決めるという異例の中、男子は頭師が強豪の石川県森川を抑え優勝。頭師は最近めきめきと力をつけてきており将来が楽しみみの選手の一人だ。女子は渡辺が頭師をタイム差で破り優勝。渡辺も着実に力をつけてきており将来が楽しみみの選手。各指導者、保護者の努

競技委員長 稲田 春男

力により小学生のクライミング能力が着実に向上しているのが感じられる。

会場内では肌寒いなか、小中学生や選手の応援をする保護者や観戦者の熱い声援がい



つまでも鳴り響き熱気にあふれていた。今回は第1回にTシャツを作成して以来、Tシャツを作ることで、選手の励みにもなったのではないかなと思う。

また、忙しいなか大会運営に協力してくださったスタッフの皆さん、ありがとうございました。

ミドル女子の部リード競技
1位 藤田 裕子(新潟市)
2位 福田 宏美(石川県)
3位 越野真理子(新潟市)

第11回新潟カップ競技成績

・特別協賛 (株)八海山
・協賛
アウトスポット
ICI石井スポーツ新潟店
ウエスト三条店
パーマールク

小学生男子の部 リード競技

- 1位 頭師 雅人(上越市)
- 2位 森川 航(石川県)
- 3位 島岡 雅(上越市)

小学生女子の部 リード競技

- 1位 渡辺優梨菜(新潟市)
- 2位 頭師 彩乃(上越市)
- 3位 千田 清楓(糸魚川市)

ミドル男子の部 リード競技

- 1位 水野 直輝(福井県)
- 2位 荒川 貴士(長野県)
- 3位 佐藤 伸一(長野県)

ミドル男子

- 1位 岩崎 昌幸(埼玉県)
- 2位 柿村 知寛(上越市)
- 3位 西巻 祐吾(上越市)

オープン女子の部 リード競技
1位 片桐麻由子(新潟市)
2位 塚本菜々香(三条市)
3位 会田 弘子(新潟市)

登山・スキー・テニスの専門店
ヒトと地球のインターフェイス
ICI 石井スポーツ
新潟店
新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134(4)
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

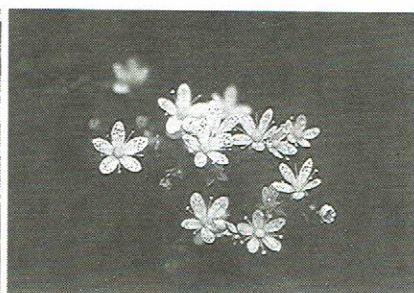
越後の山に見られる 変種植物

むささび会 加藤 明文

◆ ユキノシタ属
③ シコタンソウ Saxifraga



シコタンソウ
雪倉岳 8月1日



母種 スポテッド・サクソフリッジ
カナディアンロッキー 7月13日

高山の湿った岩上や岩礫地に産する。亜種名 *S. Funstonii* は人名。母種は点々と連なる千島列島より入ってきた(英) spotted saxifrage (斑点のあるユキノシタ) で学名 *Bronchiolis* (気管支炎に効がある)。異点は非常に枝分かれの多い母種に対して、株状になり、ほとんど枝分かれをしないが、花はほとんど差異は無い。属名サクソフリッジは岩石を破碎するで、岩の割目を好むユキノシタの意。

越後吉田山岳会「創立50周年」を祝う

燕市吉田に事務局を置く越後吉田山岳会(会長・治田利治、会員61名、創立・昭和33年4月27日)は今年創立50周年を迎え、去る10月25日(その記念行事として、山岳写真展(3日間)と講演会、そして祝賀会が開催された。当日は燕市長、燕市体育協会会長、当新潟県山岳協会からは遠藤家之進正和会長、当協会参与の平田大六日本山岳会越後支部長そして10年来交流が続いている埼玉県から秩父吉田山岳会、友好団体の弥彦、映彩山岳会の各代表や燕市岳連役員らが出席されて、吉田の会

員と共にこのめでたき50周年を祝った。

「山岳写真展」は吉田公民館で会員の作品43点を展示、同会場では講師の平田大六JACC越後支部長による「登山講演会」が満席200名の聴衆の中で開演され、引き続き「祝賀会」が53名出席のもと、遠藤県山岳協会会長はじめ主賓から祝辞が述べられ盛会に開催された。他に記念行事は7月に礼文・利尻登山38名、8月には創立50周年も続く第74回市民登山を奥白根に実施しており、残るは記念誌発行のみになっているそうである。



祝賀会で祝辞を述べる遠藤会長

当協会との関係は1年後の昭和34年4月から加盟している古参の会である。長き歴史においては昭和35年から今日までの弥彦山松明登山祭・高頭祭の後援、39年第19回新潟国体役員に2名出場、41年県境踏査飯豊連峰縦走7名、42年から10年余当協会理事、50年第30回三重国体成年男子監督と

選手に2名選出され総合第2位入賞、同年春に西蒲三山(国上)弥彦(角田)縦走路伐開、埼玉と神奈川での関東地区登山大会や全日本登山体育大会に4回参加など多くの実績がある。しかし平成9年の当協会創立50周年の「記念誌」では、丁度折悪しく7年春の分裂騒ぎで3年間の未加盟期間があったため、加盟団体の紹介に記載されていないのが残念である。

会報編集・浅野

訂正とお詫び

◇新山協ニュース20年10月20日号(第252号)3頁に掲載の『中国青海の未踏峰P5656m登頂記録「2」』の記載者 佐久間雅義隊員の所属山岳会は下越山岳会の誤りでした。訂正して深くお詫びいたします。



お知らせ

新潟の山々の写真展

「新潟百名山」発刊記念として山岳写真展が開催される。

期間 12月16日～12月29日

会場 新潟フジフィルム現像所（アウラ） 駅南桜木インター付近

主催 新潟県山岳協会

発起人 自然保護委員長 本間 一人

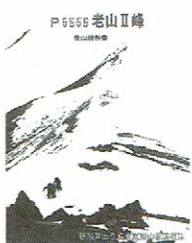
山岳協会加盟の会員が日頃の山行でレンズを通して新潟の山々を見つめ接した力作です。改めて新潟の山の良さが感じられる写真展への来場をお待ちしています。

連絡・問い合わせ 本間 一人
☎ 025-1385-1222

P5656

老山II峰の報告書 発刊近し

新潟県山岳協会 喜富山脈遠征隊の記録



A4版 約50頁
写真：オールカラー

参加隊員の編集、製本の手造りです。初版は12月末発刊の見込みです。

詳細は12月号に記載します。

頒価 2500円（送料込み）

会報編集 浅野

☎ 0258-152-1399

お願い

冬山遭難事故防止について



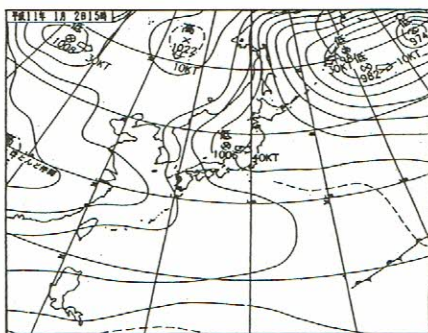
- 各山岳会にあつては冬山シーズンを迎え、荷上げも完了し来る年末での登山準備に追われていることと思いますが、事故防止のため山岳遭難対策協議会、県教育委員会、特に長野・富山県山岳遭難対策協議会から危険地区の指定、注意を喚起する通知が届いていますので次の事項について充分理解し、安全登山を行ってください。
- (1) 適切な登山計画と事前準備を。
 - (2) 登山届の励行。
 - (3) 登山中の慎重な行動
 - (4) 通信手段の確保と緊急連絡体制の確立
 - (5) 緊急時対策の確立
 - (6) 山岳遭難者探索システムの利用
 - (7) 山岳保険への加入
 - (8) 今冬の山岳状況の確認
- 天候急変による遭難事故も多く発生していますので、入山時、行動中も常に気象状況の把握に努めてください。

冬山登山は気象状況の把握から

「山の天気は厳しく、変化も急激」

冬の日本付近の天気は、西高東低の気圧配置（約半分の期間）を基本として、それに替わるように低気圧や高気圧が西側から東に移動していくことの繰り返しです。はじめは高気圧に覆われるなどして穏やかな天気であっても、それが長続きすることもなく、荒天へと急激に変わっていくこともしばしばです。

荒天では、強風による転落、低温による凍傷等、雪崩による災害などが起こります。登山の時には、準備の段階から天気図・天気予報に接して、天気の変化を理解しておくことが先ず必要でしょう。そして入山中も、地元の新しい天気予報などを利用して天気の推移に十分注意してください。



山岳遭難対策中央協議会 冬山登山の警告より



JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

<http://www.jtb.co.jp/shop/houjinnigata/>

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h_mitani388@jtb.jp

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第503号・IATA代理店 (株) 日本旅行業協会会員
本社：新潟県長岡市御幸1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

☐長岡営業所

〒940-0094 長岡市東町1丁目3番5号

一般執行取締役主任者 森 茂樹

☎ (0258)33-7123

☐新潟営業所

〒950-0916 新潟市中央区3丁目2番11号

一般執行取締役主任者 中島 豊

☎ (025)246-2266